



## 【砂漠緑化活動への参加】

北支部 栗山 研一

「今回は遠慮しときます。」私が中野区家庭倫理の会に入会したのは、昨年今頃。丁度砂漠緑化青年隊の募集があり、参加してみてもどうかと勧めてもらったのですが、何かと理由をつけて断っていました。つまり、行きたくなかったのです。すばらしい活動とは思っても、ゴールデンウィークにボランティアで中国に行く気にはなりません。しかし、今回は是非参加したいと思っています。それには3つの理由があります。

行きたいという強い気持ちを持てたこと。以前は、「誰かがやってくれる」「どうせできないだろう」と怠け心のままに、行動を起こさない人間でした。しかし、富士所の研修で、このままではいけないと強く思い、この1年即行の実践をしてきました。即行を意識し始めると、行動を起こさなかった為に多くのチャンスを逃してきていたと気づき、今では「誰か」がやってくれるのを待つのではなく「自分」が気づいた事を気づいた時に即行できる身体になってきました。また、先輩方の実践や体験談を聞くうちに、やれば出来るのだと考えるようになりました。そして今回、青年隊の募集をみて「今年は自分がやる」、「成長できる大きなチャンスだ」という気持ちが湧いてきたのです。

この活動に魅力を感じた事。素晴らしい点は、現地中国の人の参加。1999年から毎年継続し約30万本を植林してきたという事。日本人が外国である中国へ行き植林を行う事は、地球人としては当前の事ですが、日本からの距離を考えると海外からのボランティアだけでは継続的活動は難しく、やはり現地の人との協力・理解が必要です。今回は100名もの中国の学生の参加予定があるで、この活動の価値が中国でも認められている事が伺えます。この理解が得られたのも10年間投げ出すことなく続けてきた成果なのでしょう。中国の同世代の人達との交流も楽しみです。国籍や言葉の壁を越えた共同作業は、大きな喜びや達成感が得られるのではないかと期待しています。

両親兄弟からの薦め。私の両親と弟は、以前緑化事業に参加しました。お腹を下したり、シャワーのお湯が出なかったりと厳しい環境ではあったようですが、喜びと感動があり充実した時間を過ごせたと話してくれました。なによりも、楽しそうにクブチ砂漠での思い出を私に話してくれた弟の顔が、笑顔に満ちていて印象的でした。私たち地球人に共通の問題である地球の環境問題。誰かが解決してくれる問題ではありません。私は今回の参加を通して、環境問題への意識を高め、先頭に立ち解決へ導けるような人材へ成長したいと思っています。また、活動を通じ素晴らしい体験・感動が得られることを期待しています。

## 【緑化活動への参加を終えて】



4月28日から5月5日に行われた第45次砂漠緑化隊に参加してきました。今回は青年隊ということで、全国各地から18歳から30歳までの男女58名が参加し、スタッフも含めると総勢68名になりました。

北京から寝台列車に乗り13時間、バスに乗りかえた時には疲れて寝てしまいました。バスが揺れはじめたので目を開けると、窓の外は乾燥した土地が広がり、舗装されていない道を走っていました。どんな所に行くのかと急に不安になりました。前日に完成したという新しい宿舎に着くと、少し高台にあるので遠くまで続く森が見渡せました。草も木も生えていない所から、急に森が現れたという感覚です。私たちが行った作業は、まず目印のある所にスコップで1m程穴をほり、ポプラの苗を植え固定し、水がたまるように苗を中心とした土手を作るという作業でした。砂漠ではいくら掘っても砂で、掘った回りから崩れて埋まってしまうので、スタッフの方たちが予め水をまき掘りやすい状態にして下さっていたので、簡単な作業でした。今回は、多くの中国学生の参加もあり、2日間で3000本近く植えることが出来ました。同じ年代なのですぐに仲良くなれました。別れの際は、泣き出す人も居るほどでした。多くの貴重な体験が出来ました。砂漠化の現実を肌で感じられ、中国の学生とも交流でき充実したものでした。「やればできる。やらなければ何もできない。」この言葉は、植林活動を始められた遠山正瑛さんの言葉で、今回の活動をとおして私も好きになった言葉です。

## 【5月25日(火)合同おはよう倫理塾】

於天神会館

北支部・嘉山登美江さんの実践報告。お正月に椅子から落ちて背骨を圧迫骨折してしまった。4週間寝たきりの入院生活のあとリハビリを経て2月末に無事退院。順調に回復したのは陸上選手のお孫さんから勇気もらったのと毎日病院へ来てくれたご主人のおかげと笑顔で報告された。続いて山崎恵介副管区長のお話。



今の時代は、道徳があっても暗い世の中だ。道徳と幸福が因果関係でなければならないのに、道徳が装飾になってしまっている。物や金に依存し、欲が絡み、物や金が必要とされている。現在は、人と人よりも、金と金とのつながりが大切な世の中になってしまっている。これで幸せになれるのか。



NHKのテレビ番組によると、現在の日本では32000人が孤独死をしているらしい。誰にも見取られず、孤独に死を迎えている老人達がいるということだ。元を忘れた、つながり忘れた世の中になっている。本当のものに触れなければ何もわからない。「本当のもの」とは親の心である。倫理は心のあり様の勉強であり、素直になる勉強である。精一杯、はっきりと、明るく、曇った心を澄んだ心にする...たくさんのお話を学びました。

## 【5月5日 秩父路へ】

高田馬場支部 深川清美



5月5日は端午の節句と春のほがい(丸山敏雄先生のお誕生日)というおめでたい日、親睦をかねて秩父路へ、温泉とドライブに行きませんか?と、田辺悟朗高田馬場支部長のお声がかかりで、10名が参加しました。

天神会館での合同実践報告会に出たその足で出発。連休の最終日だということにスイスイと7時半には目的地に着いてしまいました。目的の「星音の湯」は10時からなので、急遽、羊山公園の芝桜の丘にってみようということになり8時の開園と同時に入場することができました。

9種類の花で染め分けられた見事な芝桜をゆっくり見ることができ、思いがけなく目の保養をさせてもらいました。

9時45分、「星音の湯」に到着。開館と同時に入場し、露天風呂やらサウナと思いきいに楽しみ、11時より「里山のおそうざいバイクング」に舌つつみを打ち、車の混み具合を想定して早めに帰路に着きました。

ほとんど渋滞することなく、5時半には東京へ。すばらしい天気にも恵まれた楽しい一日でした。

## 【ゴミゼロを目指そう!!】

5月28日(金)快晴。午前7時30分集合。中野区役所、環境と暮らし分野のクリーン&マナーアップキャンペーンに参加した。家庭倫理の会・中野区が区役所に働きかけて始まったこの運動もかれこれ10年になる。年々参加団体も増え、近隣の商店街、町会はもとより、今年からJR中野駅の職員の方々も駅周辺がきれいになるならと制服で参加された。



ポイ捨て禁止のティッシュ配りと清掃のグループに分かれ、私たちは、清掃をしながら、空き缶、空き瓶を拾い区役所から中野駅周辺を一周した。ゴミは思ったよりも少なかった。区民のマナーが向上したのでしょうか?この運動の成果?

平日のこの時間帯だったので、参加し難い会員が多かったのですが道路は通勤通学の歩行者や自転車であふれていた。多くの方々にポイ捨て禁止・環境美化をアピールすることができたと思う。

(桐山)



## 6月 インフォメーション



6/6(日)合同おはよう倫理塾・相馬紀子専任講師 6/29(火)どんぐり子育てトークサロン・スマイル中野・託児あり

6/20(日)合同実践報告会

「楽しく子育てしましょう」

丸山 恵子生活倫理相談士